

事業所名 鶴鶴グループホーム
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成19年12月26日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 社会福祉法人生活指導員
 資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉主事、ホームヘルパー2級、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー
B:現職 介護支援専門員
 資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員、介護老人福祉施設(9年)
C:現職 理学療法士、ガイドヘルパー講師
 資格・経験 理学療法士、介護支援専門員

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
 全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

ホームは、岡山市の市街地にあり、バス停まで徒歩2分と交通至便な所で、スーパーや商店も近い。
 ホームは、医療機関と一体的な関係にあり、医療の支援は充分にある。また、すぐ近くには総合病院もあり、24時間、医療対応が可能で、入居者・家族は安心が得られる。
 長年推し進めている、地域住民の健康や福祉に関わるあらゆる問題を総合的に考え理想的なものとするプライマリ・ケアの趣旨は、グループホームを通して地域によく理解されている。

グループホーム運営の基本方針「生きている限り人間らしく」は、職員全体にしっかりと浸透して共有されている。職員は、入居者に寄り添い、丁寧に笑顔で接し、個人の人格を尊重する介護を行っている。入居者の笑顔と屈託の無い表情からも、そのことがうかがえる。

ホームはマンションのような外観で、2階から4階に各ユニットがある。フロアごとに特色があり、ユニット間の親密な付き合いと助け合いの中で、強い連帯感が出来ている。

施設長の家族を介護した経験を、ホームを通じて社会に還元して行きたいというコンセプトからホームはスタートしており、スタッフへの適切で細かい思いやりと意見をよく聞く姿勢は、社員のやる気と精神的安定を醸し出し、また、ホームへ活力を与え、入居者に安心感をもたらしている。

人生最後の住処として、「ターミナルケア」に取り組む体制が出来ており、入居者・家族は晩年まで安心して任せられる。

特に改善の余地があると思われる点(記述)
 特別に改善すべき点として指摘する箇所はない。

市街地の中にあり、ともしれば地域との連帯意識が薄らぐが、地域運営推進会議をより一層充実・活性化し、今日の社会に求められている地域共同体としての価値観を啓発していかれることを期待する。また、医療・福祉のみならず、少子化・高齢化に伴う地域の安全性に寄与し、安心して暮らせる町作りの核となり、地域社会に貢献されることを期待する。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<p>入居者の生活歴・趣味を把握し、本人の潜在的な能力を引き出すように支援している。「人間は生きとし生ける以上、いつまでも可能性を持って必ず成長する」とのコンセプトに基づき、入居者主体の自立した生活に向けて努力している。</p> <p>入居者の尊厳を第一に考え、「生きている限り人間らしく」を基本テーマとし、手を出す介護より見守り中心の介護を行うように心掛け、家庭的で安らぎのあるホーム生活を目標としている。</p> <p>入居者・家族の希望により、ターミナルケアのシステムを取り入れている。最期まで家族と同じように寄り添い、安心して人生の終末を迎えられるよう取り組んでいる。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>職員は、忙しい時間であっても入居者の要望に応じて対応しており、寄り添う姿勢を大切に、精神的ケアを中心とした入居者の心の安定を重視する介護を目指している。</p> <p>入居者の能力に応じてそれぞれが出来る役割を作っている。目標を持って毎日を過ごしてもらい、ホーム生活が充実出来るよう取り組んでいる。</p> <p>入居者本人の生活リズムや行動パターンを把握し、起床から就寝時間まで個人の自主性を尊重した余裕あるスケジュールで、入居者が自由に行動出来るよう取り組んでいる。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のベースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>入居者個人の経験・職歴を把握し、一人ひとりの能力・意向に沿って自主的に作業や趣味活動を行えるように支援している。また、各自のペースで自由に楽しんでできるように取り組んでいる。</p> <p>人生の先輩として入居者を敬い、一人ひとりの経験・能力を尊重した働き掛けをしている。</p> <p>入居者に関する記録・書類等の個人情報、事務室の鍵の掛かる場所に保管しており、個人情報の保護に留意している。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<p>「独り言ノート」を活用して、職員の悩みや現場の意見・気づきを汲み取るようにしている。施設長は、管理者・職員との意思疎通を図り、職員の悩み解消とチームケアの向上に努めている。</p> <p>職員は、外部の研修に積極的に参加し、その内容はリーダー会議・スタッフ会議にて報告し、職員全員で内容を共有している。また、報告された事例を検討して、介護技術のレベルアップに努めている。</p> <p>些細な事故、トラブル、ヒヤリ・ハットも漏らさず記録して報告し、その因果関係・対応策をスタッフ会議で検討して事故及び問題発生の防止に繋げている。</p>		